

優秀賞（朝日新聞社賞）

NPO 法人聴覚障害者生活支援センターこすもすの家

代表者 玉野 和子（福祉分野／周南市）

活動の動機・目的

「やりたい事がなんでもできる場所がほしい」という声から始まり、「お正月は一人だったから淋しかった」「人は集まったけど手話はないからね」との声を聞き、「いつでもOKの家を借りれたらいいねえ」と話が盛り上がった。その後、社会の現状にぶつかりながら、理解のある人との出会いもあり、古民家を借り、重複、高齢ろう者らみんなで毎日手に金づちやスコップを持って修復し、完成したのが「こすもすの家」。この家を作った目標は

- ①ろう者が時間を気にしないでおしゃべりできる場
- ②就労の難しい人達の目的のある生活の場（作業をし、利益を得る。聴覚障害者人材派遣）
- ③独りぼっちなろう者をなくす場 「独りぼっちなろう者をなくそう」との想いで立ち上げ、聴覚障害者が豊かに暮らせる社会を目指す。

活動の内容

平成25年より、「こすもすの家」の事業拡大と若いろう者の就労の場となれば…という思いより、就労継続支援B型事業を開始。身近な地域に、作業所、集会所などの多目的機能を有する施設として活動し続けている。ろう者の思いがたくさん詰まった『夢の城』。

①就労継続支援B型事業（月～金曜日 9～17時まで）

○生活支援

- （作業支援）手芸、木工品の制作、除草作業やハウスクリーニング、内職作業、ポスティング等。
- （生活支援）コミュニケーション支援や手話通訳。ゴミの分別方法の助言、諸手続き支援等。
- （健康管理）血圧や体温の確認など健康管理。また予防接種の促しや服薬サポート等。

○聴覚障害者ミニデイサービス（毎月第1土曜日）

「地域のデイサービスに行っても話す人がいない」との声から当初より開始。昼食は自炊。

○手話指導・・・依頼があれば、市民対象講習会、学校、医療機関など随時実施。

②土曜日学校（第5週目午前開催）周南市社会福祉センターで手話サークルと一緒に開催。

③子ども発達事業

利用者さんの子どもで聴覚障害や発達障害の子どもも増え、親の相談を受けたことから開始。

○言語聴覚士が指導したり、保育士、子育て先輩ママも相談に乗っている。

○月2回の「遊ぼうDAY」を開始。

子どもたちが障害の有無に関係なく集い、お互い工夫をしあいながら遊び合える場。

○子ども手話クラブ・・・小学生対象に夏休みに6回実施。

④商品販売・・・「憩いの驛・えんがわ」の店舗にて手芸品、木工品等を販売・接客等。

⑤夏祭りを開催・・・聴覚障害者による聴覚障害者も楽しめる夏祭り。ろう者の実行委員会を立ち上げ、「手話サークル」と「ろう団体レインボー」他ボランティアも協力。作業所前にある公園で、地域の方もお手伝いして下さる。

⑥「ありがとう祭」開催・・・豚汁・おにぎり無料配布、作品展示、作った野菜や作品の販売等。

これからめざしたいこと

「子ども発達事業」について、子どもはむろんのこと、親御さんやご兄弟のサポートにも力をいれたい。「こすもすの家」に行けば仲間に毎日会えるという喜びが10年間「こすもすの家」を輝かせてきた。できればここにいるろう者たちが、老後安心してこれからの暮らしを送ることができるように、みんなで力を合わせて頑張っていきたい。

